

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300191		
法人名	株式会社ライフケアみおつくし		
事業所名	グループホームみおつくし のぞみ		
所在地	名古屋市守山区竜泉寺二丁目1139番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成24年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年3月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は小幡緑地公園の一角に位置し、自然が豊かで静かな過ごしやすい環境にあり、四季折々に季節の移り変わりを感じる事が出来るのが特徴です、旧施設は民家改造型(増築時にリホームと防火防災に備えた設備も完備されました)加えて新築の2ユニットです。豊かな自然を生かし出来るだけ外で過ごす時間を作り自然を肌で感じていただける工夫をしています、天気の良い日の10時15時にはグランドでお茶会、又畑作り 収穫物を生かした食事会(芋の天ぷら)年間行事になりつつある流しそうめん等々とにかく外に出る事を、自然を肌で感じる事を大事に考えた企画を行っています。

ホームは昨年1ユニットが増えて新たに2ユニットとなり開設時からずっと引き継がれている職員の想い「やすらぎ」を理念として、リビングに掲げて職員同士共有し、実践に繋げていけるように常に意識している。職員が利用者の立場を自分、家族に置き換えて職員の業務本位の支援では無く、利用者一人ひとりが自由に自己決定が出来、その人らしい穏やかな生活が送れるような支援を常に心がけている。ホームの周りは自然がとても豊かで四季折々の移り変わりを利用者は肌で感じる事ができており、畑では季節の野菜作り、薪割り、花の水やり、野菜の収穫、遊歩道の散歩など常に利用者が外で過ごせるような時間をつくり、豊かな自然を満喫できる工夫をしている。管理者手作りの木製の椅子やテーブル、健康の為に足湯の設置などホームのサービスとケアの質の向上に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「やすらぎ」を各スタッフは自分自身に置き換え自分だったらどんなケアをしてほしいかを考え利用者さまの気持ちに寄り添ったケアを全員参加のカンファレンスで共有しケアに当たってる	リビングに理念「やすらぎ」を掲示し、職員は利用者と共に共有している。日常のケアが理念に添えるように確認しあって、利用者のペースと思いの尊重を大切に日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの立地条件上地域とのつきあいは困難ですが散歩等での出会いを大切に挨拶会話を心がけホームへの訪問を働きかけてる	ホームの周りは住宅地が少なく交流は難しい立地条件ではあるが、自治会に加入して回覧板を回したり、集会場、公民館の掃除当番を行ったり、区の福祉祭りにも参加している。また日々の散歩の際には地域の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の専門性を生かし町内会組織を通じて地域に根ざした介護センター(介護について気軽に相談出来る場所)として位置つけていただける様に町内会組織を通じて働きかけてる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1度のペースで家族 町内会長 民生委員 主治医 包括支援センター(年に一度)にご協力いただきホームの活動報告運営地域への貢献等へのご意見指導をいただいている	地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長、家族などを交えて会議を実施し、ホームの現状報告や今後の取り組みについての意見、提案を話し合っている。民生委員からは、管理者に独居老人のケアの依頼の案もでている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は地域包括支援センター主催の認知症専門部会へ参加し守山区における認知症の皆さん家族への援助のあり方等を年間を通して討論運営に参加している	日頃から利用者の事務手続きの為に区の担当課に出向いたり、区からホームへの訪問で、ホームの現状や活動など理解して貰えるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員一同は身体拘束をしない介護を事あるごとに確認し合い、又全ての利用者様の安全と穏かな生活を最優先に身体拘束をしない介護に取り組んでいる	毎月のカンファレンス時に身体拘束の勉強会を行い、支援の仕方を職員同士確認し、気が付いた点や改善点を話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について毎月のカンファレンスで必ず学習確認し合い、又入浴時等に利用者様の体を観察しスタッフ間における検証も行い虐待防止予防に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の権利を擁護する成年後見人の制度について在籍してる利用者様の後見人様の協力指導で学び、それらを活用援助できる管理者職員を目指してる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず全部の内容を管理者が説明し家族の不安に対して十分に時間を取り納得いくまで説明し十分な理解のもとで契約を交わしてる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時及び四季折々のお便り(みおつくし通信)等で意見を頂ける様に手配してはいますが、なかなか意見はいただけないのですが、最近習字を利用者様に指導して良いかとの申し出が有り今後、具体化したいと考えてる所です	家族の面会時や運営推進会議の際に、利用者の状況やホームの活動を伝えたり、家族からの意見要望も伺い、カンファレンス時に話し合いが行われ運営に反映出来るように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスで短期長期に関わらず行事運営に関する意見、を職員から提案してもらい担当を決め企画を練り利用者様と楽しんでます	管理者と職員は日々のコミュニケーションの中で信頼関係を築き、意見要望など話し合っって支援に繋がるように努めている。ホームの年間行事は職員同士が意見提案して、担当や企画を決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個人の能力資格を發揮できる環境作り、各々が夢を持てる職場にしたいと話してる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護技術の向上の為教育係を設け実習を行い、又資格取得の推奨をしてる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域包括支援センター主催の認知症専門部会へ参加しホームを地域における介護相談センターへと心掛けてる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所が決まった時点から本人の思いを聞き取り安心して共同生活に入れる様に関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に於ける家族の不安や困ってる事を聞き取り介護における思いを家族と共有出来る関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に対してどの様なサービスを提供するか、したらいいのかを家族と共に入所前に相談し又職員間でも検討し共有している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を介護してあげるだけの関係で無く、自分も共同生活の一員としての立場に立ち利用者様に寄り添った介護を目指している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日常的に家族と連絡を密にして、利用者様により良いサービスを提供出来る様に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の要望に応じて年賀状、日頃のお便りが出来る様に支援、又買い物に出た時など以前の住み慣れた町へお連れし以前を回想していただいたりしている	個別支援一対一での支援は難しいが、買い物、ドライブなど外出する際には、利用者様を馴染みの場所に連れていき思いをはせて貰ったり、家族の協力を得て墓参りや馴染みのお店へ食事に出掛けたりして貰っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自立度が近く性格的に合いそうな事なども考慮し意図的に交流を促進したり、自然な成り行きでの交流を見逃さず孤立した利用者様が無いように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても入所先が決まるまで相談に応じたり心当たりの施設の紹介援助を行いいつでも相談に応じる旨を伝えてある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で個々の希望意向を把握しコミュニケーションが困難な利用者さんに於いては家族からの聞き取りアセスメントを活用し把握に努めている	日々の会話の中で言葉や表情などから察して、文章を書いたり野球観戦を楽しんだりスタッフとお手玉で遊んだり一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の聞き取りや入所後に本人とのコミュニケーションの中で把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル各ユニットの申し送りへ参加して各人の体調現状の要求把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすために健康については訪問看護さん主治医と相談、ケアについてはスタッフとの意見交換、又要望意向については家族本人の意見を反映できるように介護計画の作成に努めている	スタッフは業務をこなす介護計画ではなく、利用者と日頃のかかわりの中で思いや家族が訪問した時などや毎朝の申し送りを下に月1回カンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で申し送りを共有視し個々人に対して問題点を見逃さないようにし介護計画のなかでの改善目標に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々人の健康管理に気を配り専門病院への付き添い主治医に於ける健康診断同行家族が訪問しやすい時間設定もフレキシブルになど柔軟に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の周りの自然を生かした取り組み四季を体で感じれる気軽な取り組み(公園でのにぎり弁当お茶持参)散歩早朝ウォーキング 畑を作って収穫祭等々を楽しんでる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームでは基本的に入所の時に主治医を当ホーム契約医師に替わって頂く様にお願いしています。現在週一度の往診をしていただいております。相談にも応じて頂いております。	週1回ホームの契約医師が往診に来ている。また、ペースメーカーを付けている利用者は入所前の専門医に家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様の変化を申し送り等で共有し、訪問看護さんへの相談がいつでも出来る体制を作っており、主治医への受診や看護が適切に受けられる様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当ホームは医療機関へ安心して受け入れていただけるよう契約を取り交わして病院関係者からの情報もいただき、施設で生活が出来た状態になったら早期に退院して認知症の進行を最小限にする努力をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時のため入所時に後見人家族の意見をいただきできるだけ、本人家族の要望に添える終末期のため家族と話し合いをして、又重度かになりそうな状況を見極め早めにご家族に連絡をとり、その後の援助に取り組んでいる	医療行為で入院した時はホームの方針を入所時に家族や後見人に説明して同意を得ている。重度化した場合家族と相談してホームが対応しえる最善策の支援に努め取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変又は災害時を想定し救命訓練や応急手当事故発生への対応訓練を消防へ依頼し定期的に計画し実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災地震に備える為に自主防火防災計画書を作成し町内会組織にも組み込んでいたできるように申し入れを行い、又職員全員を対象に施設独自で炊き出し 防火防災訓練等も行っている	消防署職員の指導の下に年1度避難訓練を実施している。また当ホームの訓練で消火器の使い方の訓練をしたり今後は炊き出しを行う予定である。災害に備え備蓄庫には食料や飲料水、備品も準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の人格を尊重する介護と利用者様の状態に応じ安全とプライバシーを守ること、介護職員の共通の課題としカンファレンス等でも問題を共有しプライバシーを守り人格を尊重する対応してる	利用者一人ひとりを尊重して本人の気持ちを大切に考えさりげない声かけに努めている。ことばの制止についてスタッフ間で意見交換をしてプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思い希望を出していただける雰囲気作りに努め、声掛けする中でもアンテナを広げ自己決定支援につなげている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さまがどの様に生活したいかを介護の中心におき、介護側の都合を優先させないようにして利用者さまのペースで生活できるように支援してる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さまの要望にそった身だしなみやおしゃれが出来るように支援してる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめる雰囲気作りとして献立への要望を聞き、職員と一緒に食事作り後かたづけ、食事する場所等も考慮し食事を楽しんでいただいている	食材は利用者の好みを考慮した献立を職員と一緒に考えている。楽しんで食べるために天気の良い暖かい日にはホームの庭で食事をしたりおやつを食べたりしている。利用者の誕生日や季節に沿った献立も工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分量摂取に気をつけた支援を一日の流れの中で習慣として組み込み、その都度気配りして一人一人への援助をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行い、その人に合ったケア本人の自立度力に応じた口腔ケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立への向上心を大切に各々の力量に合った支援を心がけ、排泄パターンを見つけ誘導し失敗を少なく、自立への援助から全介助の人へ出来るだけ残存機能の開発に努めた援助をしている	職員が利用者の様子を見て察して声をかけてトイレに誘導している。本人が持っている残存機能を導き活かし自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が健康に及ぼす影響を理解し、食事内容の工夫から体を動かす事を働きかけ下剤に頼らない便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に潜む危険を回避する為、介護職員の充実した時間帯を入浴時間とし自立度の高い利用者さま他どうしても洗浄の必要な利用者さまについては適宜入浴を支援している	入浴は毎日13時頃から個々に入っている。週3回を目安に利用者のその日の希望などを確認しながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々の不安解消に心掛け、自立度に合わせて日常生活の中で、出来るだけ体を動かしていただき安定した睡眠が摂れるように援助している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の使用している薬の目的を充分理解し確実な服薬を援助し症状の変化に気をつけ健康維持の援助に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまの自立度に合わせた役割りを持っていただき、又各々の趣味や楽しみごとを把握し張り合いのある日常生活が送れるよう援助し、気分転換を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的外出の支援として、食材の買出し買い物一般 職員が外出する時は出来るだけ同行していただき社会参加していただくと同時に気分転換に役立てていただいている その他ミニドライブ公園散歩等を意識的に取り組んでいる	スタッフが買い物に出かける時には一緒に買い物に出かけている。ドライブや緑地公園に散歩に出かけるなどしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは基本的に金銭の個人所持は控えていただいております、ご家族にも理解して頂いて、小額な所持でご本人の安心につながると云う事であれば家族との相談で所持も可能		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切なお友達への手紙電話ののやり取りについては相手の方の了承を得て援助している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は出来るだけ混乱が起きないように大きくわかりやすく表示したり利用目的がはっきりわかるような配置を工夫している	玄関には管理者手作りの木製の長いす、居間の窓際には手作りの木製の足湯、居間の壁には木製の手作りカレンダー等が配置され、居心地よい工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い々の所で過ごしていただけるようにホールを工夫して可能な限り心地よい生活空間作りに心掛けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具小物を持ち込む事で安心し落ち着いた生活が出来る事を家族にも伝え、入所するとき出来るだけ使い慣れた物を持ち込んでいただき居心地の良い空間作りに努めている	利用者一人ひとりの居室扉にはその人の顔写真や家族と一緒にの写真が利用者の目線に貼ってある工夫がしてある。居室はスッキリしているが居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さま個々人の身体能力に合わせ使いやすい工夫をし安全で自立した生活が可能な空間作りに努めている		

### 外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2371300191
事業所名	グループホーム みおつくし

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 定期的にフラダンス、大正琴など市民クラブによるボランティアをホームに迎え交流に努めている。その際に地域住民に参加の声かけを行っている。ホームが地域に貢献出来るように、回覧板を通して日常の介護相談や質問など何か有れば問い合わせるよう、働き掛けている。さらに、民間のヘルパーの実習生の受け入れも行っている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 運営推進会議は議題を設けて2ヶ月に一度実施されている。ホームの活動報告に対して意見提案が交わされ、昨年はホームの老朽化に伴い改修の要望が多かった。その結果旧ホームのリフォームと新築が行われ、2ユニットとして新しく開設されている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 管理者は地域包括支援センター主催の認知症専門部会に参加し、認知症の理解を深めて貰う為のイベントを行っている。市主催の研修会や勉強会などにホームの職員は随時参加して、スキルアップとホームのケアの質の向上を図っている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 意見箱を設置しているが、家族の面会時の際に意見要望を汲み取れるようにコミュニケーションを大切にしている。利用者の生活状況や連絡事項など、ホーム通信で知らせる他に常に電話連絡等行い、家族が安心出来るような取組みに努めている。ホーム通信も年4回発行されている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。		○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。